

氏名	わだ ふき 和田 茜
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第1125号
学位授与の日付	令和6年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 建築学専攻
学位論文題目	京都市における小売市場の成立と展開
審査委員	(主査)教授 清水 重敦 准教授 大田 省一 教授 阪田 弘一 神戸女子大学 客員教授 *中川 理

論文内容の要旨

本学位請求論文は、第一次世界大戦後の物価高騰を背景に行政主導で設置が進められた京都市の小売市場をとりあげ、その成立と都市内部にそれらが波及していく過程を辿り、小売市場がどのような主体・計画の下で形成され、普及していったのか、その一端を明らかにするものである。小売市場とは一つの建物内に複数の小売商人が入居する形式をもつ商業市場で、日用品の安定的な供給と廉売を目的として、1918年(大正7)に公設市場として行政主導で設置が進められた。その後、公設市場に追従する形で民間事業者による私設市場が開設され、その設置数は公設市場の設置数を遙かに凌ぐようになる。本論文は、官民両方の事業主体が存在した小売市場の動態に焦点をあて、大正期から高度経済成長期までを通時的に辿り、周辺の商業空間や商業形態との関連性についても検討を行うことで、計画を企図する側である都市行政と、計画を受容しながら新たな事業を生み出し生活を営んでいく都市住民の関係性を詳らかにし、近代都市の形成過程における小売市場の役割を考察している。

以下、本論を順に追っていくと、第1章「公設小売市場設置計画」では、わが国に公設小売市場が導入した経緯を辿り、公設小売市場の導入が都市衛生・労働者の増加に伴う食糧供給問題の解決と物価の高騰の一つの要因であった旧来からの商習慣を正す装置として期待されていたことを明らかにした。第2章「京都市における小売市場の成立」では、伝統が強く残ったと考えられる歴史都市・京都市において、小売市場の導入に際して、どのような政策方針が掲げられたのかを検証し、都市内部における小売市場の成立過程を詳らかにした。第3章「大正期から昭和10年代における京都市の私設小売市場の展開」では、京都市で開設された私設小売市場の動態に着目した。そこから、私設小売市場の開設には多様な業種の人々が参入し、いわば一種の投資事業として新市域に建設されていったことが示された。第4章「統制経済下から高度経済成長期の京都市における商業集団の形成とその立地」では、戦中期から昭和30年代における小売市場を辿り、戦時下で進められた統制経済によって京都市内の商業機構やその構造の変容を詳らかにし、戦後に現れた新興商業集団と戦前から存在する商業集団が都市内部にどのように商業空間を構築していくかが検証された。第5章「高度経済成長期以降の小売市場」では、協同化や連合化など商人たちの動きが具体的にどのように政治や都市に働きかけられたかが検証された。以上により、商業空間の形成期における小売市場の役割、また都市計画の枠内での商業集団による自律的市街地

形成の過程が明らかにされた。

論文審査の結果の要旨

本論文では、わが国における公設小売市場設置の議論とその後の小売市場の展開を踏まえて、京都市における行政主導の公設小売市場と民間事業者主導の私設小売市場の成立と展開過程を辿ることで、近現代期における京都市の商業と都市空間の変容が通時的に分析された。近代都市史研究の近年の研究動向としては、戦後の都市空間、とりわけヤミ市研究など商業空間の形成過程に焦点を当てたものが増えており、東京や神戸を事例として活発な議論が行われている。本論文はそのような中で京都の事例を付加する役割を果たすものとなる。また、商業空間研究としては、百貨店、商店街の研究が先行する中で、公設市場に関する研究は、植民地都市の市場など一部を除いて進展していない分野であった。本論文は、公設のみならず私設市場を広くターゲットとして、戦前から前後を通じての市場の発生・展開を詳細に調査しており、たいへん意義深い研究成果といえる。

本文では、第1章にて我が国に公設小売市場の導入が行われた経緯を述べているが、ここで内務省の対応が立地のあり方、建築構造など、その方針を示すにとどまり、具体的な法律や制度としては成立しなかったこと、そのため戦前期においては各自治体独自の手法によって小売市場の設置が進められていったことを、明らかにしている。まずは全国的規模での状況を解説し、以降の章で京都市を対象としていくことの布石となっているが、新規史料の発掘により従来より飛躍的にディティールへの考察が行き届いたものとなっている。第2章ではいよいよ京都市の小売市場についての論述となるが、商慣行が確立している歴史都市京都では、近代的商業の場を標榜する小売市場が切り込むには困難があったことは想像に易く、移動市場まで導入しての市当局の取り組みが明らかにされた。一方、周辺市街地は近代の都市化のフロンティアでもあり、市街地化と歩調を合わせて、時にはそれをリードするかたちで、小売市場が続々と開設された様が述べられる。第3章では、公設市場を範として広がった私設市場について、その原動力の源を明らかにした。都市計画の方向性を読みつつ、投資目的を含んだ企業家たちの動きが詳らかにされた。第4章以降は戦後の話となり、新興商業集団が既存の業者との関係を取りつつ、新たな商業空間をつくり出していった様子が描かれている。さらに、中小企業庁の設置に代表されるように、商業者の自立化・集団化の政策の中で、商業協同組合の設立など、戦後の都市化の中での商業空間の形成過程が詳細に検討されている。その後の展開は第5章で述べられ、スーパーなど今日の日常空間の中での商業空間の基盤が、これまでの本論文内での事象と繋がっていることが提示される。以上の各章すべてにおいて、膨大な資料の博摂を経た論考は説得力が高く、ここで明らかにされた新事実群は、近代都市史研究に新たな地平を切り開くべきものである。

本論文は、以下のように、査読システムが確立した学術雑誌への投稿論文がその基本を成している。

和田謙, 大田省一, 中川理「戦前期京都市の小売市場の設立基盤とその立地構造に関する研究—郊外地の市街地形成過程に関連して」『日本建築学会計画系論文集』第87卷第802号、2022年) 2666-2677頁

和田蕗,大田省一,中川理「第二次世界大戦後の京都市における商業集団の形成とその立地に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』第 88 卷第 806 号、2023 年) 1505-1516 頁